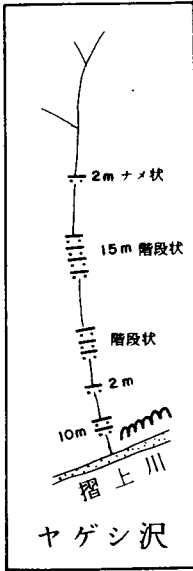


結構多く、右岸を直登する。上部はシャワークライムとなった。

上に出て少し進むと、沢は平凡になる。三〇分程歩いても変化がないので、また上上がって踏跡でも利用しようかと考えていたら、滝が出てきた。五趾程で右岸を直登。その上にも、もうひとつ一〇趾の滝。これはホールドも少ない。右岸から取り付き、小さなスタンスと、あまり当てにならない枯木、ブツシュを利用しながら登りきる。この上はまた平凡となった。

一四時一〇分、バラバラと木々の葉を打つ雨音が聞こえてきた。すこ



い夕立である。雷も鳴っている。みる間にズブぬれとなった。「ええいままよ」と更につめ上げ、一四時三〇分、二俣に分かれ、小さなルンゼ状となったのを確かめて引き返すこ

ヤゲシ沢

L
一九八三年九月三日

天気晴。鱒沢合流点そばに車を置いて、溜上川本流右岸の岩場をへつってヤゲシ沢出合まで下降する。一四時二五分、出合着。

出合すぐに、F1一〇趾が立ちほだかっている。水量はそれほど多くもなく直登するが、苔はついているし、岩の突き出ている所はあるしで、足

とにする。(記)

「タイム」 増沢バス停(一三:四〇)
↓入谷(一三:二五) ↓遊行終了
(一四:三〇) ↓増沢バス停(一六:〇〇)

場は悪く、ザイルで確保してもらおう。次にF2、F3と傾斜をもった階段状の滝が続く。対岸の道路からはこのあたりの滝がきれいに見えるとこの事である。

三〇分も歩くと、急に沢は狭くなって、ヤブがかぶさってきた。今日の遊行はこれで終わりとして、一五分程ヤブをこいで、左岸の造林地の踏跡に出て下山する。

短い遊行であったが、初めの取り付きがおもしろい沢であった。

(記：)

芦ヶ沢

一九八二年九月十五日

〔タイム〕 出合(一四・二五) ↓ 遊行

終了(一五・〇〇)

国道三九九号線にかかる橋から沢に入る。しばらくはガツチリ石垣とコンクリートで固められた流路溝の中を進む。三箇の小滝を越えた所で、ようやく自然の流れとなった。

砂防ダムを越えると五箇の滝。これは出だしから調子がよい。右岸に取り付くが、途中でホールドがなくなる。あてにしていた木の枝に手が届かないのだ。仕方ないので、シュリンゲの先に重りがわりにカラビナをつけ、投げ上げてひっかけ、それ

を頼りに越える。この先は明るくなり、平凡となった。

サルナシがいっぱいの実をつけている。まだ少し早い。部分的に熟れたものを選んで口にされる。おいしい。

一〇箇二段の滝を直登すると、気持ちのよいナメが現れて、沢はまた面白くなる。快適に進んでゆくと、大岩が行手をふさぐ。自然の砂防ダムとなっていて、土砂が堆積している。ここが二俣で、昼食をとる。

右俣には小滝が連なっていて興味をひかれるが、今日の目的は左俣だ。ずっとナメが続いている。しかし、もう沢幅は狭く、快適さは望めない。ヤブがかぶさってきた。稜線は目の前に見えている。このまま沢をためてゆくより、造林地の中をぬけてゆく方が楽のように思えたので、右

